

モーツァルト室内管弦楽団 第162回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 162^e concert régulier

〈創立45周年記念シリーズ〉第1回

〈フランス音楽特集／室内オーケストラによるベルリオーズ第2弾!〉

2015年1月11日(日)午後2時 ■いずみホール

Dimanche 11 janvier 2015 à 14h Izumi Hall, Osaka

■主催:モーツァルト室内管弦楽団 <http://moz-kam.org>

■協賛:いずみホール〔一般財団法人 住友生命福祉文化財団〕

■マネジメント:大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504

*ロビーでは大阪ユニセフ協会を通じて、世界の子どもたちのための募金活動を行っています。



モーツァルト室内管弦楽団 第162回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 162^e concert régulier

2015年1月11日(日)午後2時●いずみホール

Dimanche 11 janvier 2015 à 14h Izumi Hall, Osaka

〈創立45周年記念シリーズ〉第1回

〈フランス音楽特集／室内オーケストラによるベルリオーズ第2弾！〉

アダマン

Adolphe-Charles Adam(1803-1856)

歌劇《われもし王者なりせば》序曲

Ouverture pour “Si j'étais roi”

ラヴェル

Maurice Ravel(1875-1937)

ピアノ協奏曲*

Concerto pour piano et orchestre*

I. Allegramente

II. Adagio assai

III. Presto

* * *

ベルリオーズ

Hector Berlioz(1803-1869)

ヴァイオラ独奏付き交響曲《イタリアのハロルド》作品16**

Symphonie avec un alto principal “Harold en Italie” Op.16**

I. 山の中のハロルド、憂愁と幸福と歓喜の情景

／Harold aux montagnes, Scènes de mélancholie,
de bonheur et de joie: Adagio - Allegro

II. タベの祈りを歌う巡礼の行進

／Marches de pèlerins chantant la prière du soir
: Allegretto

III. アブルッツォの山人が愛人に寄せるセレナード

／Sérénade d'un montagnard des Abruzzes
à sa maîtresse: Allegro assai - Allegretto

IV. 山賊の饗宴、前景の回想

／Orgie de brigands, Souvenirs des scènes précédentes
: Allegro frenetico

ピアノ: 山田富士子* / Piano: Fujiko Yamada*

ヴァイオラ: 店村 眞積** / Alto: Mazumi Tanamura**

管弦楽: モーツァルト室内管弦楽団 / Orchestre: Mozart-Kammerorchester

コンサートマスター: 釋 伸司 / Premier violon: Shinji Shaku

指揮: 門 良一 / Direction: Ryoichi Kado

ベルリオーズという存在 II

ベルリオーズという人の人生は、その音楽に負けず劣らず波乱に富んでいると言えよう。彼の代表作《幻想交響曲》は、ベートーヴェンの死のわずか3年後に登場した全く奇蹟としか言いようのない革新的な作品であるが、同時に音楽史上最初の私小説的作品でもある。シェークスピア女優のハリエット・スミスソンに対する気も狂わんばかりの片思いを、アヘン吸引の夢想状態で恋人を殺し地獄に落ちるといふ、おどろおどろしい音楽ドラマに仕立て上げたのである。実際には、スミスソンへの求愛が拒まれた後カミーユ・モークなる女性ピアニストと婚約したのだが、パリ音楽院のローマ賞受賞によるローマ滞在中に一方的に婚約破棄を通告され、彼女とその相手を殺して自分も死のうとパリへ向かう途中で思いとどまる、という逸話も《幻想交響曲》作曲の背景にあった。これらの話は激情的ロマンティストであったベルリオーズの面目躍如たるものを感じさせる。

《イタリアのハロルド》は《幻想交響曲》に次ぐベルリオーズの交響曲作品であり、ヴィオラ独奏付きという点で《幻想》とはまた違った特異性を持っている。ヴィオラを配するに至った事情は当時ヨーロッパを席卷していた天才ヴァイオリニスト、ニコロ・パガニーニ（1782-1840）との出会いによるものである。そのいきさつはベルリオーズ自身の回想録に詳しく書かれており、大変おもしろいので引用してみよう。

『《幻想交響曲》をもう一度プログラムにのせた。こんどは一気に、満場に湧きあがる称賛をえた。完璧な成功であった。（中略）さらに幸運なことには、聴衆が去って空になったホールの中かで一人の男が私を待ちうけていた。長い髪、鋭い眼、風変わりで、やつれた顔、魔物に憑かれたような風貌、巨人の中の巨人といった威厳……私はその人物にこれまで一度も会ったことはなかったが、一目みてなにやら心が深くゆらいだ。その人物は私が通りすぎようと呼びとめ、握手をし、燃えるような称賛の言葉で私を圧倒してしまった。私は身も心も焼きつくされる思いがした。その人はパガニーニであった。1833年12月22日のことであった。』

パガニーニは、最近ストラディヴァリのヴィオラを手に入れたのでそれにふさわしい曲を書いてほしいと依頼する。ベルリオーズは一旦は断るが、パガニーニの熱望に負け引き受ける。

「最初の楽章ができるかできないうちに、パガニーニはそれを見たがった。アレグロ楽章のヴィオラ・パートの休止記号を一目みるなりパガニーニは叫んだ。『いや、こんなじゃないんだ！これでは私はあまりに長く沈黙していることになる。私は終始演奏していなければならぬのです。』私は答えた。『ですから申しあげましたように、あなたが欲しておられるのはヴィオラ協奏曲にほかならないのです。したがってあなたご自身がご自身のために作曲なさればよいのです。』パガニーニは反論しなかった。彼は失望した様子であった。』

5年後にパガニーニは再びベルリオーズの演奏会に姿

を見せた。彼はこのとき始めて《イタリアのハロルド》を聴く。パガニーニは病気のため声が出せなくなっており連れていた息子に自分の感動を伝えさせた。翌日息子がベルリオーズを訪れ父親の手紙を託す。「わが親愛なる友よ、ベートーヴェンが世を去ったいま、彼を再生させる人間はベルリオーズ以外にありません。貴君の天才にふさわしい貴君の聖なる作品を心ゆくまで耳にしました。ここに私の称賛のしるしとして、なにとぞ二万フランをお受けとください。』

回想録というものは晩年に書く過去の自慢話であるから、話半分には読む必要があるだろう。しかし上記のくだりは真実味があるように思える。二万フランというのは現在の日本の貨幣価値に換算すると一千万円を下らないようだ。

ベルリオーズは作曲の初期段階でパガニーニの失望を目の当たりにし、意を決して自分流に作曲を進めることにした。ローマ滞在中にさまよい歩いたアブルッツォの山中を舞台に、独奏ヴィオラにバイロンの名作「チャイルド・ハロルドの巡礼」の主人公になぞらえた自分自身を託し、《幻想交響曲》と同じくイデー・フィクスによってそれを表現した。イデー・フィクス（固定楽想）というのは、《幻想》においては恋人を表し、《イタリアのハロルド》ではハロルドすなわちベルリオーズ自身を表す旋律であって、全楽章にたびたび姿を現すものである。リストの循環形式、ワグナーの指導動機の先駆に当たる。

パガニーニの賛辞にもあったが、ベルリオーズはベートーヴェンの理解者、賛同者であった。ベルリオーズの母校パリ音楽院でアブネックという指揮者がオーケストラを組織してベートーヴェンの交響曲を演奏し始め、ベルリオーズはそれによりベートーヴェンを知り傾倒していった。《幻想交響曲》はベートーヴェンの交響曲第6番《田園》をモデルとして5楽章形式になったと思われるし、《幻想》の第3楽章にも《田園》の影響が窺われる。《イタリアのハロルド》の第2楽章もベートーヴェンの第7交響曲の第2楽章に似た雰囲気があり、第3楽章のリズムも第7の第1楽章のそれに似ている。何よりもベートーヴェンを彷彿とさせるのは第4楽章の開始部である。あの「第9交響曲」と同じ、前の3つの楽章を回想する形式が取られているのである。

ベルリオーズ独自の境地はなんといってもその管弦楽法のたくみさである。古典派から前期ロマン派にかけての作曲家の中ではモーツァルトとシューベルトが楽器の用法に通じていたと思えるが、ベルリオーズは革命的な全く新しい管弦楽法を編み出した。軍楽隊での主要楽器（ホルネットやE♭クラリネットなど）の取り込みやハーブの使用などが注目される。管弦楽法における彼の影響力はワグナーやリヒャルト・シュトラウスに及び、ロシアの国民楽派やチャイコフスキーはベルリオーズのおかげで世に出たといえるくらいである。ベルリオーズの音楽が持つ激越なロマン的感情はそのみごとに管弦楽法によって聴く者に迫ってくるのである。

さて、前作《幻想交響曲》では主人公は夢の中で恋

人を殺して地獄に落ちるのだが、ベルリオーズはその筋書きを文章にし、プログラムとして残している。《イタリアのハロルド》にはそのようなものはない。にもかかわらず、世の解説書では「ハロルドは山賊の饗宴に巻き込まれて命を落とす」と書かれているのだ。その根拠となった書き物があるのならばぜひ知りたいものである。ご存じの方がおられれば教えていただきたい。

アダン：歌劇《われもし王者なりせば》序曲

奇しくもベルリオーズと同年の生まれであるアドルフ・アダンは、《ジゼル》という古典的バレエ音楽の作曲者として知られる。他の作品としては《クリスマスの賛美歌Cantique de Noël（英語名 O Holy Night）》と《モーツァルトの（きらきら星）の主題による華麗な変奏曲》、それにこの序曲が今日よく演奏されるようである。このオペラそのものの筋書き等は資料がないので不明であるが、序曲はお聴きになればほとんどの方が「聴いたことがある」と言われること請け合いの、いわゆる「懐メロクラシック」である。エロールの《ザンパ》、トマの《ミニョン》等とならぶポピュラー・フランス・オペラ序曲のひとつ。

ラヴェル：ピアノ協奏曲

ラヴェルはフォーレの30歳年下で、その作曲の弟子なので、いわばサン＝サーンスの孫弟子にあたる。このピアノ協奏曲は晩年近く作品（1931年）で、もう1曲の《左手のためのピアノ協奏曲》と並行して書かれたのだが、両者の性格は全くちがう。この「両手のための」協奏曲は「モーツァルトとサン＝サーンスのピアノ協奏曲の精神で書いた」と作曲者本人が言っている。モーツァルト以後、そのピアノ協奏曲のスタイルを最も忠実に受け継いだのはサン＝サーンスであり（5曲のピアノ協奏曲がある）、ラヴェルはさらにそれを引き継いだといえる。

曲は1920年代末の時代感覚を反映した極めて前衛的なもので、全体はフランス文化伝統のオリент趣味やラヴェルの生地バスクに由来すると思われるエキゾチックな音素材によって構成されているが、その中で多調（異なる声部で異なる調が並行していること）の手法や、当時ヨーロッパでも流行し始めたジャズのイディオムが多用されている。また、明らかにストラヴィンスキーの模倣と思われる箇所もある（《春の祭典》の初演は1913年）。

両端の楽章はそれらの手法が中心となって、あたかもアメリカのスラップスティック・コメディを見るような快活さで進んでいく。その間に垣間見えもし、第2楽章では主流となっているいささかナルシスティックな抒情性は、ラヴェルがまぎれもなくフランスの作曲家であり、その中でもサン＝サーンスフォーレ・スクールの優等生であることを明らかに示している。（この項は2010年9月の第137回定期演奏会のプログラムノートの一部に若干加筆したものである）。

ベルリオーズ：ヴィオラ独奏付き交響曲 《イタリアのハロルド》作品16

上述のようにバガニーニの依頼を契機として作曲された異色の交響曲である。第1、第4楽章がベルリオーズらしい激しさの勝った音楽であるのに対し、第2、第3楽章は抒情性豊かで、初演の折もこの両楽章がアンコールされている。全楽章にハロルドを表すメロディ（イデー・フィクス）がヴィオラの独奏で現れ、彼の行動や感情が表現される。第4楽章冒頭では上述のように、ベートーヴェンの第9交響曲の第4楽章を模して、前の3楽章の一部が回想される形式になっている。また、第4楽章の終わり近く、弦楽3重奏が舞台裏で第2楽章の主題を奏する場面があり、そのユニークな発想がおもしろい。

ベルリオーズは《幻想交響曲》と同様、オーケストラの弦楽奏者の人数を指定している：第1ヴァイオリン15、第2ヴァイオリン15、ヴィオラ10、チェロ12、コントラバス9。それぞれの数字の前には「最低でも」という言葉が付いている。本日、モーツァルト室内管弦楽団はこれを約半分の8、7、6、5、4とし、管楽器、打楽器、ハープはほぼ指定通り（ファゴットのみ指定の4を2にする）の24人、計54人の編成で演奏する。楽器の性能も奏者の腕前も初演当時に比べて比較にならぬほど進歩しており、このコンパクトな室内楽編成でベルリオーズの意図を十分に表現できると確信するからである。

〔参考文献〕

- ・「ベルリオーズ回想録」丹治恒次郎訳（白水社、1981年）
- ・「最新名曲解説全集」（音楽之友社、1979-1982年）

 KINCHO

無臭でよく効く
1年防虫

ダンスに
ゴンゴン



www.kincho.co.jp

● クローゼット用 無臭タイプ

1年続く
優雅な香り

ダンスに
ゴンゴン
Aroma



※洋服ダンス用
引き出し用もあります。

プレミアムスーケ
&
リッチフローラル
の香り

● クローゼット用 プレミアムブーケの香り

山田 富士子 ●ピアノ Fujiko Yamada, Piano

大阪生まれ。幼少より井口基成、レオニード・コハンスキー、福井直俊の各氏に師事。東京藝術大学附属高校を経て、東京藝術大学に入学、後にフランス政府給費留学生として渡仏。パリ国立高等音楽院入学、ピアノをヴラド・ベルルミュテル、マルセル・シアンピ、マルセル・ワークランの各氏に、室内楽をピエール・パスキエ、ジョゼフ・カルヴェの各氏に師事。マリア・カナルス国際ピアノコンクール入賞。日本国内をはじめ、フランス、イタリア、スペイン、カナダ、中国、マレーシア、タイ、フィリピン等でリサイタル、コンチェルト、室内楽等、積極的な演奏活動を展開し、ラジオやテレビでも放送される。また、日本音楽コンクール、学生音楽コンクール、スペイン・ハエン国際ピアノコンクール、ヴァレンシア・ホセ・イトゥルビ国際ピアノコンクール等の審査員も務める他、イタリア・サンタ・キアラ夏期国際音楽アカデミー、ブラハ・サマーアカデミーに講師として参加している。桐朋学園大学ピアノ科名誉教授。



店村 眞積 ●ヴィオラ Mazumi Tanamura, Viola



日本音楽コンクールなどの受賞歴を重ね桐朋学園大学を経て、1976年イタリアに渡り、P.ファルツィに師事。その後指揮者 R. ムーティに認められ、フィレンツェ市立歌劇場首席ヴィオラ奏者となる。1977年ジュネーヴ国際音楽コンクールヴィオラ部門第2位入賞。ジュネーヴ音楽祭など多くの音楽祭に招待され、桐五重奏団ともヨーロッパツアーを行う。1984年に帰国後は、読売日本交響楽団ソロ・ヴィオリスト、2001年から2011年5月までNHK交響楽団ソロ首席ヴィオラ奏者を歴任する一方、ソリストとして国内外のオーケストラやアンサンブルと共演。サイトウ・キネン・オーケストラ、霧島音楽祭、水戸室内管弦楽団の主要メンバーを務める。「ヴィオラ・スペース」への出演など、日本を代表するヴィオラ奏者として、室内楽やソロの分野でも幅広い活躍を展開しCD録音も多数。近年はN響の主要メンバーと「ヴィルトゥオーゾ・カルテット」を結成し、バルトークの弦楽四重奏曲の全曲演奏を果たした。現在、東京都交響楽団特任首席ヴィオラ奏者、京都市交響楽団ソロ首席ヴィオラ奏者。東京音楽大学教授。

モーツァルト室内管弦楽団 / 指揮: 門 良一 ●管弦楽 Mozart-Kammerorchester Japan/Ryoichi Kado, Dirigent

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、45年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シブリアン・カザリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07~09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09~11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を、また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を開催している。2015年より創立45周年シリーズを開始する。

●メンバー コンサートマスター 釋 伸司

第1ヴァイオリン	釋 伸司 本多 智子 松本 紗希 北村 奈美 森住 憲一 中野 瑞己 大西 秀朋 菊池 優理	ヴァイオラ	清水 めぐみ 池内 美紀 道幸 明美 佐份 利祐子 三上 哲 白木 原有子 松井 紀子 灘 儀 育子	コントラバス	林 俊武 土屋 綾子 北田 由美 松本 友樹 大江 浩志 本庄 ちひろ (ピッコロ兼)	ファゴット	佐伯 利之 倉橋 晴美 細田 昌宏 垣本 奈緒子 佐藤 明美 塚本 真衣	チューバ	木村 徳仁 泉 純太郎 打楽器	ティンパニ	吉田 周平 池内 駿 池田 健太 野田 千晶	
第2ヴァイオリン	中川 敦史 増永 花絵 川端 直子 田原 安代 幣 晴代	チェロ	日野 俊介 大西 泰徳 三宅 香織 高田 愛 若松 さより	オーボエ	福田 淳 中江 暁子 (イングリッシュホルン兼)	トランペット & ホルネット	大西 由起 森下 智稔 新穂 優子 田中 史 鈴木 智人 織田 哲朗 貴浩	ハープ	野田 千晶	バルコニー演奏	ヴァイオリン	永ノ尾 文江 赤穂 夫美 柳瀬 史佳
				クラリネット	高橋 博 (E♭クラリネット兼)	トロンボーン	鈴木 智人 岡村 哲朗 織田 貴浩	チェロ	柳瀬 史佳			

会長 谷口 安平 (京都大学名誉教授)
 監事 玉井 英二 (三井住友カード特別顧問)
 顧問 伊藤 郁太郎 (大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長) 梅原 猛 (国際日本文化研究センター顧問)
 (50音順)

《法人会員》(50音順)

荒川化学工業 遺族支え愛ネット 関西電力 きんでん 小林製薬 阪野商店	三孝社 サントリーホールディングス 新日鐵住金 住友精密工業 住友生命保険 住友倉庫	ダイキン工業 大同ケミカルエンジニアリング 高松建設 中西金属工業 林山製紙	丸山興産 三井住友カード 三井住友銀行
--	---	--	---------------------------

《個人会員》(入会順・敬称略)

深福梅石田岸梅屋國稻浮桑三三水渡平安橋阿中村松笹緒確長岸能宮祐金	田岡原本村田村良友垣田山谷浦島辺川藤本川本川林井井田田井野定	晴隆一三眞克博正俊郁信優美邦由泰忠桂昭みち重多茂尚秀嘉	世子哲也己也治和代太郎弘子一夫洋幸道士彦子龜門治光也	菅日藤馬阪和桑石高川中中豊切中三神杉野今玉野橋有佐小田島松得菱足東豊	高原場野田名光杉島井井田畑東石林浦村井手崎本賀野柳中村井田谷立田	正啓明和曉孝正方啓武佐和成敦富武恒和安隆志靖熙哲陽四と栄勝宣武紘	徳穂助和子夫子男宏助司子詞子男道子透男子朗昭雄郎一朗猛子藏郎治郎生	飯宮塩塩河佐荒宮栗野野森小野松山山大細大大山速橋梁松山萬佐八高松西	田井脇脇瀧竹木崎原口口本山原井井本磯井原原村水本瀬山山下野野木田田垣	祐芳昭祥清時陽悦順祐外志清基香道隆提清典哲洋壽郁鉄尊哲孝早富真	子子司子子子子朗子三子武浩秀純子一吉司子夫紀博健一子男昭昭昌子久子理子	榎渡小能河宮奥市櫛深加統安門早森片片長前富村乾井井原村東増関曾我筑苧笠	原辺川田井北村崎木山藤池井川原岡岡谷田田井狩狩田上見見瀬阪松	良義雄久洋浩一英好啓美敏謙二俊隆寛友純恭幸賢彌啓隆小里達英郁重満規	行明介美子司二二明浩子子雄郎六繁子子登一弘雄次介子宏子香生夫夫喜里子	近阪松増宇高後今今島青那文富士土福富森笠米太富和上栢匿名3名	藤本江田民松藤西西村山須野田橋橋谷田崎松坂田田田田	康延忠明孝喬三道須美由一彰昭康瑞茂嘉義真知久みつ吟眞紀	博夫二子正之雄郎子子子子子藏子男枝巖利之男享子枝子子夫
----------------------------------	--------------------------------	-----------------------------	----------------------------	------------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------	---------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------	--------------------------------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------

会費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。・法人会員につきましては年会費1口10万円です。
 会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口につき個人各1枚、法人各5枚)
 ・ご同伴者は10%割引となります。
 ・関連演奏会のご案内またはご優待を致します。
 ・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。
 ・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。